

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	北九州工業高等専門学校
	大学等名1(代表大学等)※カナ	キタクユウシュウコウギョウコウトウセンモンガッコウ
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	G140110111125
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	福岡県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立高専
	科目名	特別実習
	学部・研究科等名	生産デザイン工学専攻
	担当教職員名・役職	井上昌信：教授、安信 強：教授
	受講者数実績年度	令和2年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	6
	受入企業等数	4
	受入企業等名	高田工業所、日鉄テックスエンジ、Next Technology、リョーワ
	インターンシップの分類	1.長期（概ね1か月以上）インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類（記述欄）	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決（例：ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等）
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	高等専門学校 専攻科1年
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	高等専門学校 4単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	専攻科1年生を対象。後学期の授業期間中に実施し、実習期間に応じて単位を付与する。 1ヶ月以上2ヶ月未満：4単位 2ヶ月以上3ヶ月未満：8単位 3ヶ月以上：12単位
	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい

要素③	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている
		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	受入企業が解決したい現場の課題を提示し、その中から実習を希望する学生が選択できるマッチング方式である。	
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	実習終了後に実習報告書及び実習日誌を提出させるとともに、実習に関するプレゼンテーションを行う。	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	モニタリングは、履修申請段階から教員が関与するとともに、実習期間中は教員による実習日誌の確認、教育サポーターの企業訪問等を通じて行う。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
		3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準（例：ルーブリック）を整備し、学生及び教員で共有している
		4.その他
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	受入企業に実習評価報告書を提出してもらっている。
4-3.上記回答内容に関する詳細	実習日誌や実習レポートの作成とアンケート調査を行い、学生の意識や行動の変化について確認するとともに、インターンシップ実践による到達度を具体的に示すための評価基準(ルーブリック)に従った評価を実施する。また、受入企業を招いてインターンシップ報告会を実施する。	
5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい	

要素⑤	5-2.該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	事前1日 + 実施20日 + 事後1日
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	事前1日 + 実施20日(毎週1日) + 事後1日
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している
		3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
		5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
		6.企業と協働して、PDCAを実施している
7.その他		
6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	受入企業開拓について、財団法人やNPO法人との協働・連携体制を構築している。	
6-3.上記回答内容に関する詳細	企業や産業界にとっての意義やメリットを考慮し、企業と協働したインターンシップ内容の設計。 報告会への企業等の参画。 企業担当者が学生に対して適切に関与し、学校側との連絡体制構築。	
7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=45&department_id=22&year=2020&lang=ja	
問い合わせ先	大学等名	北九州工業高等専門学校
	担当部署名	学生課キャリア支援室
	担当者役職名	学生課長補佐
	担当者氏名	川端 義美
	電話番号	093-964-7238
	メールアドレス	g-career@kct.ac.jp